

新型コロナウイルス感染症対策特集

振り返ると1月14日、日本で初めて新型コロナウイルス感染者が発生。当時は中国からの帰国者などで、新たに患者が出ることは少ない。ヒトからヒトに感染するという証拠もないなどとされ、まだのんびり感がありました。その10日過ぎには中国への渡航歴がない日本人が感染。ウイルスの特徴が徐々に判明するにつれ、深刻さが増してきました。

その後東京都の感染者が増し、石川県でも人口当たりの感染者数は全国のトップクラスになりました。

新型コロナウイルス感染の経過

- 2月13日 国内初の死者が発生
- 3月16日 WHOがパンデミック宣言を発表
- 3月24日 東京オリンピックが翌年に延期
- 4月7日 全国に緊急事態宣言が発令
- 5月3日 国内感染者 15,000人を突破!
- 6月7日 緊急事態宣言を一部の地域で解除。



この先も気を抜けないわ!

リモートワークの導入

当社も、徐々に迫りくる「見えない敵」への対応が必要となりました。お客様の拠点で仕事をしている社員は、それぞれのお客様の事情や方針をお聴きし、上司と相談しながら対処しました。

4月以降、東京と金沢の当社拠点相互の出張制限と、特に首都圏勤務者はリモートワークが各所で適用されました。

当社では新型コロナウイルス対応ガイドラインを作成し、日ごろのケアや有事の際の対処などを定め、社員に周知しました。全社的な対策として

●リモート会議システムや必要な備品の導入。

●事務所内は窓を開ける、お互いの距離を離す処置を徹底。

●フリーアドレス、ワークスペースの確保。

●マスクとアルコール消毒液を一定数確保し、勤務中の手洗い、消毒、マスク着用を徹底。

●未就学児や小学生を子を持つ社員には、出勤日の調整。

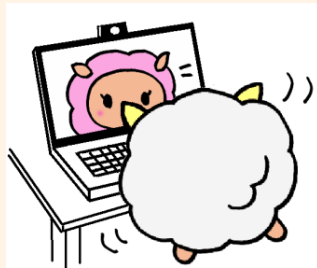
などを行いました。

首都圏勤務者の対応

全てリモートワークになったメンバーもいれば、現場から離れることができず、通常勤務のメンバーもいます。

客先から帰社し仕事をする社員も増えるため、通常勤務でも時差出勤や、チーム内でリモートワークの日を定め、出勤する人を最小限にするなどしています。

作業場所が使用できなくなり、場所を移動して作業をする現場もあれば、作業自体が中断し、休業する現場もありました。



北陸勤務者の対応

一部業務にてリモートワークが適用。首都圏同様、対面での会議・打合せを避けるようにしました。特にお客様のサポートが日々必要な部署では、シフト制を導入し対応しました。

社員は自家用車で通勤する割合が高く、通勤時に他者との

接触が少なく、密閉・密集・密接の「3密」を比較的回避できている状態です。

リモートワークについては、ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)に定められていた手順に従い行動しています。

リモート全社会議開催

5月、6月に1回ずつ、全社リモート会議を開催しました。冒頭麻井社長から、「本来ならアヤマやカキツバタが綺麗な花を咲かせる季節。そうした景色を一変させる事態が続いている。パンデミックで戦後最も深刻になると予想される日本の経済状況だが、これから生まれる仕事や生活の新たなスタイル、それに関わるDXの導入が一気に進むと思われる。我々がすべきことは多い。必ずピンチをチャンスに変えよう」とのメッセージがありました。

8名の新人が入社。研修を経て配属されます

4月から8名の新入社員が仲間に加わりました。4月20日まで、社内での合同研修を行いました。研修は、コロナ対策のため、そ

の後5月中は自宅でリモート研修を行いました。



リモート研修終了後、本社に集合し、J A V Aの復習などの合同研修。通常向かい合って座るところ、背中合わせに座るなど感染対策を施しました。

お知らせ

今年は各地で様々なイベントが中止。当社も6月恒例の創業記念式典が初めて中止となりました。

新卒の採用活動もリモートでの会社説明会を開催。予約がすぐに満室となる盛況でした。

